



すこやか通信



横須賀市医師会の活動

横須賀市立総合医療センター開院

横須賀市立総合医療センター 副管理者
小児医療センター長

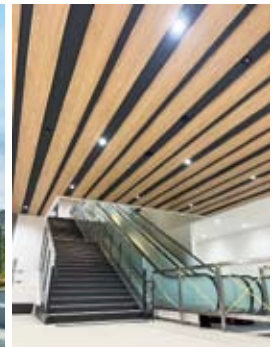
宮本朋幸

2025年3月1日、横須賀市うわまち病院は久里浜の地に新築移転し、それまでの417床から450床に増床され「横須賀市立総合医療センター」として生まれ変わりました。この「すこやか通信」が発行される頃はすでに新病院での診療が開始され、しばらく経っている頃ですが、この原稿を書いている今、うわまち病院では引っ越しの準備に職員一丸となっているところです。

新病院になっても「優しい心、深い知識、高い技術」をモットーとした高度な地域医療を行っていくことは変わりません。しかも、新病院になることによってさらに高度な医療を機能的に行えるようになっています。手術室は5室から10室、MRIは1台から2台へ、CTも2台から3台、カテーテル室も2室から3室と大幅に増加します。また、横須賀市では初のPET（ポジトロン断層像）を導入し、癌や脳疾患、心臓病の早期発見などに力を発揮できると考えられます。また、これも横須賀市では初導入であるFUS（Focused Ultrasound Surgery 焦点超音波手術）は、主に高齢者の手などの「ふるえ」を効率的に治療ができる医療機器で最先端の治療法と言えます。

横須賀市立総合医療センターは、うわまち病院と比して約2倍の建坪があり、とても広くなります。しかし、外来エリアは2階に集合し、多科に渡る受診でも同じフロアで完結します。しかも、心電図や採血なども2階で行われるので便利になります。（ただし、レントゲンなど放射線検査は1階にありますので、その時のみ1階に降りる必要があります。）2階への移動は、階段、エレベーターの他に、エスカレーターも装備しましたので、安心してご来院ください。もちろん、入院病室も綺麗で広くなりました。

新病院になっても「地域医療支援病院」に変わらず指定されていますので、かかりつけの先生からのご紹介が優先されます。今回導入されるさまざまな高度医療機器を有効に使うためにもかかりつけの先生のお見立てが重要です。かかりつけの先生が当院への受診をお勧めされたら、先生のご指示に従って当院にいらっしゃってください。横須賀市立総合医療センターは、みなさんがすこやかな人生を送れるように、地域のかかりつけの先生方と共に頑張っていますので、これからもよろしくお願いたします。



消化器内科 (1)

横須賀共済病院 消化器内科 渡辺 秀樹



身近に発生している急性E型肝炎

E型肝炎ウイルス (hepatitis E virus : HEV) は1983年に発見され、急性肝炎の原因の一つになっています。HEVに汚染された飲食物を経口摂取することによって惹起されるE型肝炎は、発展途上国では大小さまざまな規模の流行性肝炎の形をとっています。一方、先進国でのE型肝炎は発展途上国から持ち込まれる輸入肝炎として長く扱われてきました。しかし、1997年に米国で初めて海外渡航歴がない急性E型肝炎が報告されました。その感染経路を調べていくと、先進国でも飼育ブタや野生イノシシなどを宿主としてHEVが常在していることが判明し、HEVはブタやイノシシなどの動物からの感染症 (人獣共通感染症) としての側面もあることが分かりました。HEVには主に1型から4型までの4種類の遺伝子型があります (各遺伝子間には20%程度の遺伝子構造の相違があります)。1型・2型は主に東南アジア・アフリカ諸国・メキシコなどに分布し、ウイルスに汚染された水を経口摂取することで感染することが多いのに対し、3型・4型はヨーロッパ・北米・日本を含む東アジアに分布し、ウイルスに感染した動物との接触や、感染した動物の内臓・肉の過熱不十分な状態での経口摂取などにより感染することが多いことが分かってきました。日本においても2000年以降HEV感染の報告は増加傾向にあります。

E型肝炎に感染すると2-9週の潜伏期を経て急性肝炎として発症します。発症すると全身倦怠感・食欲不振・発熱・黄疸などの他の急性ウイルス性肝炎と同様の症状を呈します (発症後1カ月程度は糞便中にHEVが排泄されます)。急性E型肝炎の多くは自然軽快しますが、まれに重症化するため注意が必要です。HEVは基本的に一過性感染となりますが、免疫低下患者などでごくまれに慢性化の報告があります。また、HEVは不顕性感染 (感染しているが無症状の状態) も多く認められます。2020年から開始された献血検体のNAT (核酸増幅によるウイルスの検出) では、導入後1年間で0.055%の陽性が認められました。HEVは2類感染症のため、感染判明後は全例直ちに保健所に報告することになっていますが、報告例よりはるかに多くの方が実際には感染していると思われます。また、HEVはA型肝炎ウイルスと違い終生免疫が得られないため、何度も感染する可能性があります。

感染源と考えられるブタ・イノシシ・鹿でも摂取する際に十分な加熱をすることで感染を予防できますので、生食はできるだけ避けるようにしましょう。

皮膚科 (1)

すずらん皮膚科 院長 松岡晃弘



帯状疱疹 1

今回は第33号と第34号の2回にわたり帯状疱疹のお話をいたします。
今回は帯状疱疹がどのような病気かということと、治療についてです。
次回の内容は後遺症と予防接種になります。

「帯状疱疹とはどのような病気？」

帯状疱疹とは子供の頃にかかった水ぼうそうのウィルスが再活性化といい、再び元気になることで発症する病気です。

子供のころにかかる水ぼうそうは正式には「水痘」といい「水痘帯状疱疹ウィルス (VZV)」というウィルスの感染により発症します。

水痘が治ったあともウィルスは体の中からいなくなるわけではありません。神経の一部の神経節という部分に活動性はありませんが潜伏している状態が続きます。

その後、病気のあとや、疲労、ストレス、加齢などにより免疫力が低下した時に潜伏していたウィルスが暴れだした状態が帯状疱疹です。

「帯状疱疹ではどのような症状が現れる？」

帯状疱疹は全身のどこでも症状が出現する可能性があります。身体の左右のどちらか一方にピリピリとした痛みが出現します。頭痛、腰痛、筋肉痛、寝違えたような痛みとして感じることもあります。その後、数日から1週間くらいすると、痛かったところに赤い点々が出現し、水疱（水ぶくれ）になり数が増え、広がっていきます。同時に痛みも増強し範囲も広がっていきます。

「帯状疱疹の治療は？」

治療は水痘帯状疱疹ウィルスに対する抗ウィルス薬の内服となります。内服抗ウィルス薬は数種類ありますが、年齢や腎臓機能障害などの有無を考慮し医師が選択いたします。また効果出現には内服開始後2、3日要します。そのため内服開始後1日程度で効果がないと思い、自己判断で内服を中止したりしないでください。入院、点滴治療となることもあります。点滴治療は悪性腫瘍や自己免疫疾患などで免疫機能が低下した患者さんに限られます。疼痛に関してはアセトアミノフェンなどの非オピオイド系鎮痛薬、傷んだ末梢神経の再生を促す目的でビタミンB12の内服を併用することもあります。あとは安静にすることが大事で、患部は温めると痛みが楽になります。

できるだけ早期に治療を開始したほうが治療効果も期待できるため皮膚症状が出現したら（3日以内）すぐに皮膚科を受診してください。



横須賀市医師会の活動

HPV (子宮頸がん) ワクチンと DT (ジフテリア破傷風混合) ワクチンの同時接種 ～4月から始まる横須賀市独自の定期接種法～



横須賀市医師会 副会長
高宮小児科 院長

高宮 光

子宮頸がんの原因ウイルスであるヒトパピローマウイルスには一生の内に8割以上の女性が感染し、毎年1万人が子宮頸がんになり、毎年2,900人程度が亡くなっています。このウイルスに対するワクチンがHPVワクチンです。

2013年からHPVワクチンが定期接種され横須賀市では78%と高い接種率が、接種後の「全身の痛み」、「激しいけいれん」、「歩行障害」や「記憶障害」などの症例が続き、厚労省は「積極的に勧奨する」ことを差し控えたため1%未満に激減しました。しかし、その後の大規模疫学調査で、接種したグループと接種しなかったグループとでは有意な差はありませんでした。接種しなかったグループの中からも上記のような重篤な症状を呈する者が出て、それは思春期におけるホルモンのアンバランスやストレスから発症したものではないかと考えられています。この調査結果を受けて2021年11月から「積極的に勧奨する」ことを再開しました。

HPVワクチンは子宮頸がんを90%以上予防することができます。接種の対象は小学6年生から高校1年生で、今までは中学1年生になったら市から接種券が送られて来ましたが、接種率は平均28%で3割にも届いていません。上記の副反応がいまだに心配な他に中学生になると部活や塾で忙しく接種の機会を逃してしまうこともあるようです。そこで横須賀市ではこの4月からは1年前倒しで小学校6年生になったらDT (ジフテリア破傷風混合) ワクチンの接種券と一緒に届きますので同時接種して下さい。これらのワクチンは同時接種しても効果や安全性が変わることはありません。海外の報告では17～30歳より10～16歳の接種の方が1.5倍の効果があり、若年者での接種の方がより効果的で、小学6年生での接種は決して早すぎる訳ではありません。

横須賀市のDTワクチンの接種率は65%程度なので、同時接種すればHPVワクチンの接種率も同程度に上がることが期待されます。ただWHO (世界保健機関) は2030年までにHPVワクチンの接種率を90%以上にすることを目標に掲げています。更に子宮頸がん検診受診率が70%で、がん治療を90%が受けることができれば子宮頸がんは撲滅 (10万人あたり4人以下の患者数と定義) することができるとしています。わが国も子宮頸がん撲滅を目指してまずはHPVワクチンの接種率を上げましょう。

横須賀市医師会は、市民の皆様により良い医療を提供できるようこれからも努力していくつもりでおりますので、よろしくご支援をお願いいたします。

詳しいことは横須賀市医師会ホームページ

<http://www.yokosukashi-med.or.jp>

にアクセスしていただきますようお願いいたします。



一般社団法人 横須賀市医師会

〒238-0005 横須賀市新港町1-11 TEL 046-822-0542 FAX 046-823-4534